

第3回幌延町総合計画審議会

日 時 令和2年6月8日（月）
午後1時30分から
場 所 幌延町役場 2階大会議室

議 事 次 第

- 1 議事 第6次幌延町総合計画（重点戦略）（素案）の策定について
- 2 その他

議事録

会議等の名称		第3回幌延町総合計画審議会		
実施年月日	令和2年6月8日	場 所	幌延町役場2階 大会議室	時 間 13:30~15:35
出席者	審議会委員：一関捷治委員長、小川國弘副委員長、齋賀弘孝委員、吉原哲男委員、澤谷敦美委員、			
	山本慎二委員、渋谷直生委員、小玉利治委員、高橋秀明委員、松永継男委員、無量谷隆委員、			
	小野篤夫委員、大塚達也委員、小西均委員、高橋公晴委員、佐藤光浩委員、佐藤直樹委員、			
	佐々木幸男委員、高木健太郎委員、木山保委員、梶幹雄委員 委員26名（出席21名、欠席5名）			
町：角山企画政策課長、山下主幹、梶係長				
議事概要				
1. 開会：委員長進行				
・ 前回審議会後経過報告：議会常任委員会説明				
・ 訂正事項説明				
2. 議事：委員長進行				
・ 説明：事務局				
【第6次幌延町総合計画（素案）第3部重点戦略】				
第1章：事務局説明し委員長による質疑応答、事務局回答（以下同じ）				
第2章				
○戦略1 稼ぐ産業をつくとともに、安心して働けるようにする				
[質疑応答]				
委員：（3）観光で「秘境駅の里」という記述があるが、幌延町はもともと「トナカイの里」でありそれはどうなったのか。				
→事務局：「トナカイの里」の看板は継続しており「トナカイ観光牧場運営の充実」で表現しています。				
・ 秘境駅事業の年間1,449人の内訳は。				
→事務局：H31実績で駅ノート記載869人、糠南クリパ80人、秘境駅フェスタ80人、観光列車420人の合計です。				
・ 観光列車は幌延に来た入込ではないのではないのか。				
→事務局：幌延駅等でのおもてなしをして特産品等PRしているのでカウントしています。				
・ 観光列車が運行されないとその分減るのではないのか。				
→事務局：JR北海道による集客対策に期待したい。				
委員：戦略3には具体策が列挙されているが、戦略1はざっくりと表現され具体策が見えない。				
→事務局：第1期で事業化されたものは具体的に掲載できますが、第1期の課題を踏まえて進めなければいけない施策について掲載している項目もあるため表現が異なります。観光は広域性				

や情報発信など課題も多いですが、基本計画策定の中で盛り込めるよう検討を進めます。

委員：序論の概要ではサロベツ原野が4万人の入込と観光の大きな柱として記述されていることから観光の具体的な施策としても天然の貴重な財産であるサロベツ原野の利活用を掲載するべきではないか
→事務局：公園の管理者が環境省ということもあり、町の取組の記述としては省略しているところですが、基本計画策定の中では情報発信等努力できる部分も多いため、何らかの形で取り込んでいけるかと思います。

委員：トナカイ観光牧場の入場者数はどのようにカウントしているのか。

→事務局：出入口開閉によりカウントしています。

・ドア開閉の場合、1人で2カウントとなるのではないか。

→事務局：一度に1人ずつ入場するとも限らず、団体客の場合は一度に数十人入退場することもありそれらの数値が前後することもあるため、概ね開閉回数でカウントしています。

・第1期総合戦略の実績が公表されず、その評価や反省を踏まえて第2期の目標を設定していくべきではないのか。第1期では農業生産法人設立となっているものが、第2期では農業法人となっている。

(事務局にて、第1期KPIと第2期KPI比較表を配布)

→事務局：第1期では農業生産法人が正式名称だったが、現在呼称から生産が抜けているため農業法人としました。第1期の実績は町の政策誘導による結果ではなかったため、第2期においても同様の1件をKPIとして設定しました。

・道の駅についても同時に検討が進められているがその記述はあるのか。

→事務局：(3) 観光の部分の本文中に「まちの拠点の在り方…検討」として記述しております。

・第1期KPIの畜産クラスター推進や農業従事者数はどうなったのか。

→事務局：畜産クラスター推進を目標としてきましたが、進捗が厳しいものもあり設定を見直している項目もあります。農業従事者数は第1期では農林業センサス数値を使用していましたが、直近状況を反映していないため担当課で把握している数値としました。

委員：基本目標5を具体的な整備事業としたのであれば、KPIも具体的な率を用いてはどうか。

→事務局：基本目標5については、インフラ要素の強い部分であり、より具体的に整備項目を設定したのですが、今後の基本計画策定において細かな部分を掲載してまいります。

委員：トナカイ観光牧場入込数は現状4万1千人程度であるが、これを具体的にどのように展開して増やしていく構想なのか。

→事務局：使いやすい、見やすい施設にするという整備面と情報発信面で注力して入込数を増やしていきたいです。

・現状を継続するだけなのか。

→事務局：さらに回数を増やし内容を見直すなど注力していきます。

委員：地域おこし協力隊の活用についての現状と展望は。

→事務局：町の初めての協力隊導入分野が観光振興で定員3人としてスタートさせ、幌延駅内のホ
ロカル立ち上げ、四季自然体験ツアー、北大研究林ツアー、体験会など開催してきました。
今後も情報発信などを継続していきますが、隊員には3年という任期があるため、継続して安
定的に活動できるよう町への定住者として残れる仕組みづくりが必要と認識しています。

○戦略2 まちへの新しい人の流れをつくる

[質疑応答]

委員：住宅事情が悪く住みたくても住めずに豊富町へ流れている。公営住宅も所得制限で入居できず民賃
住宅も埋まっている状態にある。移住促進で20戸供給する根拠はなにか。

→事務局：おためし体験住宅は最長40日、移住住宅は最長5年間のもので、間寒別地区に3棟6戸、
幌延地区に1棟2戸（おためしのみ）の状況にあります。住宅確保については、公共による整
備より民間ベースの方が迅速でローコストであるため定住促進持家建設助成事業で持家の促進
、民賃AP建設助成による民賃AP建設を支援、空き家バンクによる空き家の有効活用により一
体的に進めようとするものですが、民賃AP建設助成は利用が少ないので制度設計見直しを検討し
ており、推進するものをアパートなのか社宅なのかも含め改良を加え丁寧に説明してまいりた
いです。

委員：トナカイ観光牧場の実績は4万人でそこを5万人にしていこうとのことだが、1日利用者数は100
程度との実感あるのか。

→事務局：夏場は宗谷全体で入込が多く、トナカイ観光牧場も一定数集客ありますが、一般的に観
光客が落ち込む冬場の利用もトナカイそりなどで多くあり、ランチ客も含めると概ね平均100
程度は確保できるのではとイメージしています。

委員：トナカイ観光牧場は、トナカイは見られるがブルーポピーはごくわずかな時期で、広い畑に雑草し
がなく誰も来ない状態にある。ひまわりを植える、ボランティアを募ると聞いたが、やはり雑草し
か見られないため、集客力に乏しくトナカイ以外の目玉がほしい。富良野のような花畑を目指して
ほしいとは言わないがもっと投資してもよいのではないか。

→事務局：昨年から上川管内などの観光施設を視察し、協力隊等と連携しながら手法を検討してい
ます。

○戦略3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

[質疑応答]

委員：共働き夫婦にとっては公営住宅高額化で大学就学などを考えると出産意欲がわからないので何らかの
対策ができないか。

→事務局：公営住宅は法律で家賃設定されているため減額等は困難ですが、定住促進持家建設助成
事業などの定住支援策を展開するなどしています。

委員：数値目標の結婚、出産、子育て支援に係る満足度57.5%の数値根拠は。

→事務局：アンケート結果のうち、「そう思う、やや思う」の肯定的な回答合計値です。

委員：普通出生率、合計特殊出生率、出生者数は、どこかの数値が決まればすべて決まるものではないのか。

→事務局：出生数は実数で、普通出生率は分母を町人口としたものなので、その2つは年度ごとに算出可能ですが、合計特殊出生率は出産可能な女性が出産する子供の数の平均で5年程度の間隔があつて数値が公表され人口推計に使われる重要な指標ではありますが、毎年捕捉できる数値として出生数をKPIとしています。

○戦略4 安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

[質疑応答]

委員：ボランティア組織設立件数2件のKPIで、どのような組織で、それをどのように設立していこうと考えているのか。幌延町はボランティア組織の育たない土壌にあり、日赤奉仕団も幌延地区では解散した。組織を維持することが大変で、そこをまとめていく役割を担うところが必要で、そこが町主体となるのか。ボランティアに対する考え方が行政と町民ではギャップがある。

→事務局：前回のKPIは利用件数とし、受皿組織はNPOやシルバー人材センターを想定していましたが、第1期の5年で達成することは困難でした。ボランティアしたい町民はおられますが、その受皿が無いので、組織づくりを進めていきたいというKPIです。人口減少は看過できない状況にあり、元気な高齢者の力を借りてまちづくりを進められるよう、ボランティア組織設立を検討してまいります。

委員：高齢者転出者数7人のKPIについて、超高齢化社会にあつては地域自らで支えていく仕組みが必要であり、幌延町の場合はまだ転勤族等の影響で高齢化率は低いが、福祉職員の確保が大きな課題となっている。今後、2025問題などでますます要介護者が増えていくが担い手は恒常的に不足する特老こざくら荘は40床定員のところ介護スタッフ不足で32人に受入抑制している。地域に医療と福祉サービスが低下すると転出に歯止めがかからなくなるため、行政のバックアップにより福祉医療職をどのように確保していくのか検討する必要がある。外国人労働者、ロボット導入もあるが、行政が福祉人材確保の支援をしていかなければ福祉施設が立ち行かなくなる。

→事務局：現場の困難さが伝わってきますので、基本計画策定の中で盛り込んでいければと思います。医療福祉職不足は全国的な問題でもあり、人口減少社会と共に歩んでいくうえで何らかの先端科学技術（society5.0等）導入も必須になってくるものと考えますので、人の役割の補完として検討課題と思っています。

委員：奨学資金で町内就職で免除などの制度はないのか。

委員：道内でも介護施設への就職でお祝い金を出している自治体（西興部村100万円）がある。北星園でも人材確保できず中間業者に500万円支払って4名確保した。介護人材獲得のため町のバックアップが必要であり仕組みづくりを進めてほしい。

委員：転入者としては、町内に高校大学が無いと学生は必ず町外に転出することとなるが、町内に安心して働ける職場があるなど戻ってくる仕組みが必要ではないか。

→事務局：奨学資金やふるさと教育などによる町を愛する心を育てる仕組みを整えていく必要があります。
→事務局：奨学資金については、卒業後3年以内に町内で就職し貸付期間の2倍の期間就業することで貸付金の半額を免除するよう改正されました。また、医療職の就学資金については、就業により全額免除となりますが、加えて保健師助産師については幌延町貸付者以外でも一括で遡及貸付する制度ができました。
委員：高齢者は転出者数7人と結果がKPIとなっているが、それに向けて実施していく事業を指標としてはどうか。
→事務局：細かな事業と工程管理は今後各担当で整理して主な取組として基本計画等でお示しする予定です。
→事務局：道内自治体でも年齢区分別人口の社会増減などを分析し特定の年齢層の転出抑制策を展開しているケースもありますが、本町の場合は65歳付近の転出、入所施設に入る前の年齢層の転出が多く、そこをどのような対策で抑制できるのか具体的に出しづらい面も多分にあります。
委員：高齢者の転出抑制策としては、健康寿命を延ばすことが必要で健康づくりの取組に関する記述がないのではないかと。
→事務局：アプローチの手法にもよりますが、重点戦略（総合戦略）は主に人口減少に対する対策となるため出生に着目しがちです。基本計画策定の中で健康づくりの分野も盛り込んでいくよう検討します。
委員：小中一貫教育の推進とは具体的にどのような特色を出していくのか。町内には小中だけではなく幼児教育、天塩高校等に通学する高校生、生涯教育もあるため、すべてを含めた教育の具体像を掲載するべきではないか。英検受験もKPIとなっているが、もっと具体的に文化活動も含めた対策もあると思う。ふるさと教育は体験するだけでなく児童生徒が町外に出たときに町をPRしてもらう工夫が必要だと思う。美瑛や東川は旭川空港に近くIT、海外企業が参入し児童生徒との交流を通して教育文化が発展しているので、公共交通網と連携しながらの取組も必要ではないか。教育は生涯教育として政策を掲載するべき。
→事務局：小中一貫は幼児教育も含めるべきと役場内でも議論されました。検討すべき課題として認識しております。高校生のフォロー不足の面については基本計画の中で町内に戻ってくる仕組みづくりを反映できるよう検討します。
→事務局：英検とICTは第1期のKPIには無かった項目ですが、第1期に掲載したALT等の目標が達成されたことから、その後の展開としてこれらを設定したものです。
委員：ふるさと教育のKPIが122人から120人に減少する理由は。
→事務局：現在の児童生徒数を勘案して積算しています。
委員：地域おこし協力隊は20人採用するのか。産業体験者数の積算方法は。
→事務局：隊員は1年で1人とカウントした累計で、産業体験者数は1年間の積算です。

○戦略5 新しい時代に対応し、地域人材を活かす

[質疑応答]

委員：数値目標の新たなまちづくりに資する組織のイメージは。

→事務局：まちづくりに資する企業としてバイオマス関連企業や集落支援センターなどを想定しています。5年間の戦略期間の中で何か1件でも設立させたいという願いです。

委員：集落支援活動のKPIで相談件数30件とあるが、相談よりその困っていることを解決しなければ支援とならないのではないか。

→事務局：まずは相談体制を確立して、そこから必要な支援を展開していこうとするものです。

委員：先端設備等導入とは。風力関連や新エネ関連など具体的にあるのか。

→事務局：最新技術等を盛り込んだ先端設備に対し、町がその導入計画を認定した際に固定資産税が3年間減免されるという制度です。昨年度は、農業設備や珪藻土などの分野で2件認定されています。家畜ふん尿バイオガス発電の導入が進むと、メンテナンス会社や電気会社など新たな雇用創出に発展する可能性があります。また、風力関連は送電網と浜里地区北側に発電所整備が進んでおり、町内で管理事務所設置などが期待できます。

○委員長：議事に対する審議が尽くされたので、委員各位の意見等により内容調整し町長へ答申することとし、答申にあつては委員長が代表して行うこととしてよろしいでしょうか。

○委員一同：全員承認

○委員長：調整次第委員長から答申します。

○事務局：今後、基本計画策定に向けて、町民ワークショップや役場内策定員会を開催し、事務局において素案を作成し、審議会開催のご案内をさせていただきます。

(以上)

幌延町総合計画審議会委員名簿

NO.	機関	職名	氏名	部会
町議会議員				
1	幌延町議会	議員	斎賀 弘孝	◎まちづくり・行財政専門部会
2	幌延町議会	議員	吉原 哲男	福祉・民生専門部会
教育委員会委員				
3	教育委員	委員	澤谷 敦美	○教育・文化・体育専門部会
農業委員会委員				
4	農業委員	会長	卯子澤 芳彦	◎産業・経済専門部会
国及び道の地方行政機関の職員				
5	留萌家畜保健衛生所	所長	山本 慎二	産業・経済専門部会
6	幌延河川事務所	所長	渋谷 直生	まちづくり・行財政専門部会
町の区域内の公共的団体の代表者				
7	民生委員協議会	会長	小玉 利治	福祉・民生専門部会
8	幌延町農業協同組合	部長	谷口 智哉	産業・経済専門部会
9	幌延町観光協会	理事	高橋 秀明	産業・経済専門部会
10	幌延市街地区連合町内会		一関 捷治	まちづくり・行財政専門部会
11	問寒別地区連合町内会	推薦	小川 國弘	教育・文化・体育専門部会
12	幌延町商工会	会長	松永 継男	○産業・経済専門部会
13	幌延町文化協会	会長	無量谷 隆	教育・文化・体育専門部会
14	幌延町体育協会	会長	角山 隆	教育・文化・体育専門部会
15	生涯学習センター運営審議会 (社会教育委員)	委員長	小野 篤夫	教育・文化・体育専門部会
16	幌延町社会福祉協議会	事務局長	大塚 達也	○福祉・民生専門部会
17	幌延町職員組合	推薦	新野 貞治	まちづくり・行財政専門部会
18	幌延福祉会	施設長	小西 均	◎福祉・民生専門部会
19	JR幌延駅	駅長	高橋 公晴	まちづくり・行財政専門部会
20	幌延郵便局	局長	佐藤 光浩	福祉・民生専門部会
21	稚内信金幌延支店	支店長	佐藤 直樹	○まちづくり・行財政専門部会
22	雪印メグミルク幌延工場	総務課長	山本 耕司	産業・経済専門部会
23	北海道電力幌延NWセンター	所長	佐々木 幸男	産業・経済専門部会
学識経験者				
24	北大天塩研究林	林長	高木 健太郎	◎教育・文化・体育専門部会
25	幌延地圏研究所	推薦	木山 保	教育・文化・体育専門部会
26	幌延深地層研究センター	副所長	梶 幹雄	産業・経済専門部会
町長が適当と認める者（一般公募）				
27	公募		なし	
28	公募		なし	
29	公募		なし	
30	公募		なし	

まちづくり・行財政専門部会	6名
福祉・民生専門部会	5名
産業・経済専門部会	8名
教育・文化・体育専門部会	7名
計	26名